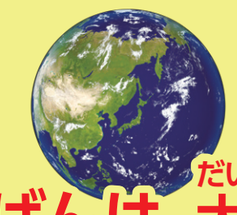
History of そろばんの歴史

1. そろばんの誕生

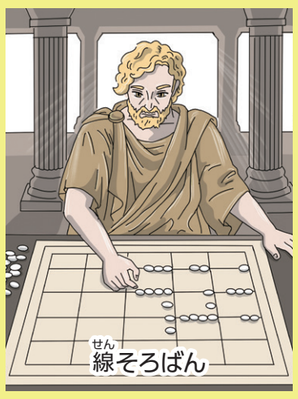


ー初めてのそろばんは、大地である地球だった！ー

遥か4000年ほど前、メソポタミア地方で砂の上に線を引き、その上に小石を置いて計算するそろばん、まさに大地をそろばんとした『そろばんの誕生』である。砂そろばんと呼ばれた。

2500年ほど前には、エジプト、ギリシャ、ローマで盤(平らな板や石)の上に線を引き、その上に玉を置いて計算をする線そろばんがある。そして、2300年ほど前になると、ローマで使われていた、五玉1個・一玉4個が溝に入っている溝そろばんが生まれた。

4000年前　メソポタミア地方で「砂そろばん」が使われる
2500年前　エジプト・ギリシャ・イタリア(ローマ)で「線そろばん」が使われる
2300年前　ローマで「溝そろばん」が使われる



縄文時代

弥生

200年　漢の徐岳が著した「数術記遺」に「珠算」の文字がある

飛鳥

700年頃　中国から暦・算木・掛け算九九が日本へ伝来した

2. 日本にそろばんが伝わる

700年頃、中国から計算道具として「算木」が伝わった。算木は、割り箸を5cmぐらいに切った赤と黒のような棒を並べて、布や紙で作られた算盤の上で計算する。その当時、九九八十一から始まる掛け算九九も伝わっている。

1371年に中国で発行された本には、「算盤」という文字と「その図」が載っている。これは、小さな子供が文字を覚える時に使う本であった。そして、1572年頃、中国から日本に初めて「算盤(五玉2個・一玉5個)」が伝わったといわれている。

1371年　中国の本「魁本対相四言雑字」に「算盤」の文字と図が掲載されている
1572年頃　五玉2個・一玉5個の算盤とともに「割り算九九」が日本に伝わる

古墳

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

3. そろばんの改良

中国製の算盤は、玉が大きく丸くて弾きにくいところがあった。その部分などの改良・工夫を加えた日本製の算盤も作られ始めた。

1622年頃に京都でそろばん教室が「天下一割算指南」という名前で開かれる。そして1627年には、算盤による計算方法やいろいろな計算の問題の解き方を例とした、そろばんの教科書ともいえる「塵劫記」が出版され、江戸時代に日本の数学の本がベストセラーとなった。多くの人が寺子屋などでこの本を教科書にして、そろばんを学び、そろばんでたくさんのことを学んだ。

1591年　豊臣秀吉より拝領の算盤
1592年　朝鮮出兵のときに前田利家が陣中で使用した算盤
1595年　拉葡日対訳辞典に「Soroban」と記載がある

江戸

1622年　毛利重能が「割算書」を刊行した
1627年　江戸時代に最も多く読まれた珠算書「塵劫記」を吉田光由が刊行した

4. そろばん教育が始まる

明治時代に入り、1873年、小学校の算術に「珠算」が採用された。中頃には、「五玉1個・一玉5個の算盤」が広く使われるようになった。

大正時代を経て昭和時代になり、1928年、個々の珠算の技能を正しく評価するために「珠算検定試験」が始まる。1938年には、文部省が小学校では「五玉1個・一玉4個の算盤」がよいと指示したことから、使用する人が次第に多くなった。そして、義務教育が六・三制に定められた1947年から現在に至るまで、小学校では「そろばん」が継続して学ばれている。

1873年　小学校の算術に「珠算」が採用された
1879年　五玉1個・一玉5個の算盤が使われる
1881年　目の不自由な人のための算盤が考案される
1886年　小学校令で算術は尋常小学校では「珠算」と定められる

明治

大正

昭和

1926年　高等小学校で珠算を学ぶことが必修となる
1928年　珠算検定試験が始まる
1938年　文部省は五玉1個・一玉4個の算盤を小学校の「児童用標準そろばん」と決める
1942年　文部省は国民学校3年生から「珠算」を必修とする
1953年　全国珠算教育連盟が創立される

令和

平成

5. 世界に広がる「そろばん」

oroban

▲詳細はこちら

2014年に「珠算」が、世界無形文化遺産(中国)に登録された。世界中で継承しなければならない重要なものの一つであると認められたのは、珠算による教育的効果、文化・経済の発展への貢献等が理解されたことによる。現在では、世界の100を超える国や地域で「そろばん」が学ばれている。

2013年　公益社団法人全国珠算教育連盟として活動する　2014年　「珠算」が世界無形文化遺産(中国)に登録された

「未来のそろばんは一体どうなるのだろう?」と考えたキミ。未来は皆さんが築いて行くもの。そろばんのよさと可能性を学んだ皆さんに託します。

公益社団法人 全国珠算教育連盟